



ワヤック諸島のピンデイト山
山頂から、島々の美しい景観
を堪能できる

4皇が実存した、新世界の海

ラジャアンパット クルーズ

Raja Ampat Cruise



ラジャアンパットとは、「4人の皇帝」を意味する。
日本人ダイバーに広く知られるようになって、まだ数年。4皇が統治した海……、
アニメONE PIECE好きであれば、それを聞いただけでも
「何か出て来るかも!」とワクワクしてくるに違い無い。
そんな海に、やっと足を踏み入れることが出来た。
自分にとっては沢山の期待をはらんだ新世界の海にダイビングクルーズ船で乗り出した。
さて、行く先には、どんな生き物たちが待ち受けているのだろうか。

写真&文 / 越智隆治
Special Thanks / edive
Design / tomato



01

4皇の海への入口、ソロンへ

日本からインドネシアの首都、ジャカルタに飛び、そこから国内線に乗り継いで、マッカサルを経由し、インドネシアの島々を東へと移動して、西バブア州ソロンの飛行場に降り立った。空港と言うより、飛行場と呼ぶ方が似つかわしい。掘建て小屋を大きくしたような飛行場で働くポーターやタクシードライバーの顔つきが、ジャカルタで見かける一般的なインドネシア人（ジャワ人）ではなく、褐色の肌で、鼻が大きく、髪の毛が天然パーマのバブアニューギニア人独特の顔をした人々に変る。それもそのはず、ここは、ニューギニア島の最西端に位置している。国は同じでも、飛行機を乗り継いだ事もあり、まったく別の国へやってきたような感覚を受けた。

ジャカルタから合流した、ediveの平川恭さんが、空港に迎えに来たクルーズ船の現地ダイビングガイドと一緒に、20人近

くいるゲストのケアをしながら、数台のタクシーに荷物とともに便乗し、今回乗船するマーメイドII号が停泊するソロン港へと向かった。

空港から港までは、タクシーで10分程。ソロン港には、多くの漁船やタンカーとともに、何隻かのダイビングクルーズ船が停泊していた。その多くが海賊船のような帆船型。それがまた、「ここは海賊船の寄港地!?!」とちょっとワクワクさせてくれる。冒険への期待は、高まっていく。



02

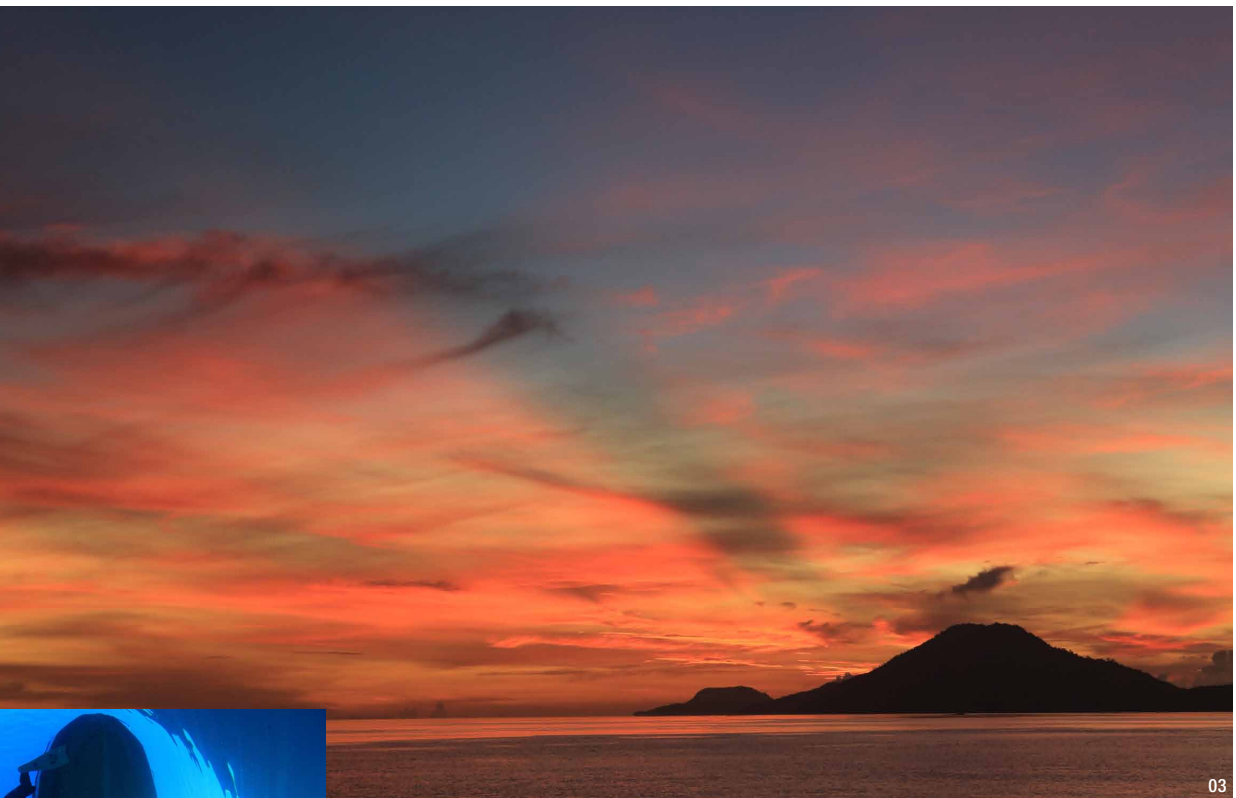
01/生物の宝庫なのに、抜けるような透明度が楽しめる時もある

02/べた風（ベタ）の海でリラックスダイビング

03/美しい日の出や夕日に島々のシルエットがアクセントを与えてくれる



01



03

ソロンを出港！ ラジャンパットのグランドラインへ

ゲストが乗船して、準備が整うと、船は、小さな島々が転々と連なる、穏やかな海を滑るようにダンペア（Dampier）海峡へ向けて北進する。天候に恵まれたとは思いますが、3月のラジャンパットの海は、ほとんど波の揺れを感じることもなく快適な船旅から始まった。

4皇という意味を持つラジャアンパットは、ワイギオ（Waigeo）島、バタンタ（Batanta）島、サラワティ（Salawati）島、そしてミ

ソール（Misool）島の大きな4つの島と、その周辺に点在する600以上の島々からなる。1,300種以上の魚類、600種のサンゴ、700種の軟体生物が確認されているという、海洋生物の宝庫だ。そして今なお、新種の生物が発見され続けている。

今回のクルーズでは、北のワイゲオ島、南のミソール島周辺の人気ダイブサイトを巡った。

4皇が実存した、新世界の海

ラジャアンパットクルーズ Raja Ampat Cruise

ocean+α

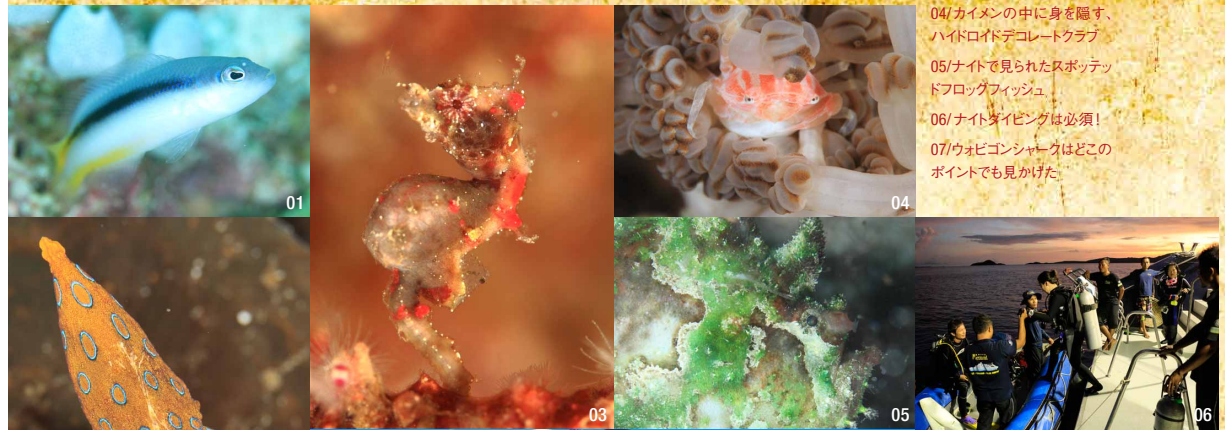
©ocean+ α ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.edivekhaolak.com>

関連情報HPへ

未開の海は、海洋生物の宝庫



04/カイメンの中に身を隠す、
ハイドロイドテロレトクラブ
05/ナイトで見られたスポット
ドフロッグフィッシュ
06/ナイトダイビングは必須!
07/ウオビゴンシャークはこの
ポイントでも見かけた



01/固有種ラジャティーバック
02/ブルーリングオクトパスも
頻繁に見られた
03/ポイントヒビグミーはラジャの
北エリアで多く目撃された

初日や2日目に潜った、ワイギオ (Waigeo) 島の南西にある、マンソワール (Mansuar) 島から北東に連なる島々に点在するダイブサイト、ミオスコンやサーディンリーフ、ブルーマジック、ケープクリでは、早速この海に生息する海洋生物の種類の実感させてくれた。

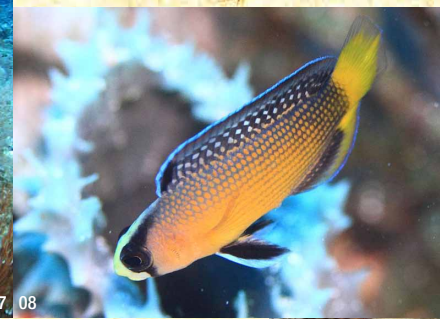
この海では、定番と言っても過言では無いポイントヒビグミー・ホースやブルーリングオクトパス、それに大物系ではウオビゴンシャーク (オオセ)、固有種のラジャ

ティーバックや、他の海ではあまり見られないテールスポットブレニー、スプレッティドティバックなどなど。とにかく、様々な生物のオンパレード。

ワンピースの個性的な登場人物同様に、この海で見られる生物たちも、また個性的な連中ばかりだ。

しかも、それが元気に成長を続けるハードコーラルやカラフルなソフトコーラルの中に棲息している。それだけでもワクワクしてくる。

地形、マクロ生物、群れ&大物系、ハードコーラル、ソフトコーラル、マングローブダイビング、地形、ナイトダイビングと、これだけバリエーションに富んだダイビングを楽しめるのが、ラジャアンパットクルーズの魅力だ。



08/ラジャの人気者、スプレッティドティーバック
09/2013年8月に新種認定されたウオーキングシャークもナイトで

夜に姿を見せる、歩くサメ

個性的なキャラクターの中でも一際目立つ存在がいる。

クルーズ取材では、普段はナイトダイビングをスキップして、船上でのナイトライフを満喫することが多い。「船の快適さを実感するのも取材のうち」と理由をつけてビールを飲んでしまうのだけど、「ラジャアンパットでナイトダイビングを潜らない手はないよ」とediveの平川恭さんから言われた。

それは、ここでしか見れない珍しい“歩くサメ、Walking shark”・エボレットシャークが夜行性で、ナイトダイビングでしかほとんど見ることができないからだ。

体長は最大でも80センチほどのこのサメ、どれだけ珍しいかと言うと、2013年の8月30日に、環境保護団体コンサベーション・インターナショナルが新種として発表した、バリバリ新種のサメ。今では同種のサ

メが6種類も見つかっているそうだ。それだけ、ラジャアンパットはまだ未開の海であるということ。そう言われるとビール飲んでも場合でも無い。

それに、このサメ以外にも沢山の変わった生物に遭遇できるので、マクロ好きであれば、ラジャアンパットでは、ナイトをスキップせずに潜ることをおすすめする。



4皇が実存した、新世界の海
ラジャアンパットクルーズ
Raja Ampat Cruise
 ocean+



テールスポットプレニーは、ラジャアンパットのアイドルフィッシュ。コミカルな動きと見慣れないカラフルな体色が、目を引く



ビンジャロスナッパー、普段は地味な色なのに、近寄ると、深紅に体色を変える。これも、ラジャアンパットの名物



サンタクロースの呼び名がついたビッグシーホース。この化可可愛いビニーが見たくて訪れるダイバーもいる



マンタとも遭遇できるポイントが何カ所かに点在する

02

未開の海は、海洋生物の宝庫

4皇が実存した、新世界の海
ラジャアンパットクルーズ
Raja Ampat Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.edivekhaolak.com>

関連情報HPへ

03

ハードコーラルとソフトコーラルの驚異的な群生に目を見張る

まだまだ手つかずの海である証拠に、この海のハードコーラルもソフトコーラルも、あたり一面に広がって群生しているポイントが多い。特にウミウチワの群生の仕方は目を見張るものがある。ピグミーシーホースが多く棲息しているのも頷ける。ハードコーラルにしても、白化とは無縁ではないかと思えるくらいに、足の踏み場も無いくらいに群生している。

もしかしたら、これが本来あるべき海の姿であって、決して珍しい事ではないのかもしれない。これだけ群生していれば、例えば、オニヒトデによるサンゴの食害とかまったく目につかなくて、悪者扱いされることも無いんじゃないかとさえ感じる。生態系の食連鎖の中に、当たり前のように組み込まれてしまうのでは無いかと思える。それくらいにサンゴが元気に成長している。

01/元気に成長するハードコーラル
02/ラジャの海を象徴する、イエローリボンスイートリップス



03/群生するイソバナの上を乱舞するハナダイたち
04/どこに行っても元気なイソバナの群生が見られた
05/地形もラジャの売りの一つ
06/地形ポイントにも様々なサカナたちが群れる



4皇が実存した、新世界の海
ラジャアンパットクルーズ
Raja Ampat Cruise
ocean+α



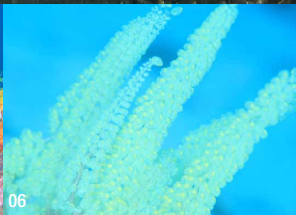
- 01/砂泥地にいたのは、レドシュリンブゴビー
- 02/カイメンの上にはプレニー
- 03/マングローブの目の前の浅瀬まで、ハードコーラルがぎっしりと群生している
- 04/ハードコーラルの上には無数のマンジュウイシモチが
- 05/ソフトコーラルもカラフル
- 06/色彩が可愛い
- 07/まるで山野に咲くキイチゴのようだ



04 マングローブで幻想的なダイビング



- 08/他の海では見かけないカイメン
- 09/ワライボヤなどもあちこちにある
- 10/マングローブの中にはテッポウオ
- 11/バッセージでは、カイメンが付着した岩の間を、流れに乗ってドリフトダイビング



4皇が実存した、新世界の海

ラジャアンパットクルーズ Raja Ampat Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.edivekhaolak.com>

関連情報HPへ

04

マングローブで幻想的なダイビング



01/まるで川の upstream へ分け入るようなダイビング

02/水の上は木々の緑に覆われ、水面下には、カイメンやウミウチワが群生している

03/岩一面がひょっとこのようなホヤに覆われている。こんな見た事ない

04/マングローブの中はおとぎ話の世界のようだ

05/マングローブの迷いの森から抜け出し、青い海へと続く

マングローブリッジというポイントは、ヤングフェオ (Yanggefo) 島とジェム (Gem) 島に挟まれた狭い海峡でダイビング。陸はマングローブに覆われていながら、ドロップオフやスロープの目までマングローブが迫る。その側には、美しいサンゴが群生している。ありそうで、なさそうな風景。

まずはサンゴを壊さないように、そして、次にはマングローブの泥を巻き上げないように、ゆっくりゆっくりマングローブの中へ

と進んでいく。まず目に止まったのは、サンゴの上に群れをなすマンジュウインモチ。こんなに群れているのは初めて見たかもしれない。

そして、マングローブに入っていくと、テポウウオたちが水面下を泳ぎまわって獲物を探していた。さらに奥に進み、浅い海中にある横倒しになった灌木の上では、大きなブダイが数匹泳いでいた。その情景は、やはりちょっと現実離れしていて、おとぎ話の世界に紛れ込んでしまったような不思議な感覚にとらわれた。

たまには、こんなダイビングも面白い。

川のような激流チャネルをドリフトダイブ

これも、他の海ではなかなか経験することのできないダイビング。ザ・パッセージは、やはりワイゲオ島とジェム島の間でできた、狭く細長いチャネル。このチャネルを流れて身を任せてドリフトダイビングする。

流れは時に激流で、両サイドの島は鬱蒼とした木々に覆われていて、まるで、川でドリフトしてるみたい。チャネルの中央は流れが早いので、流れの緩い岸に沿って、

海中景観を楽しむ。晴れていれば、海面まで張り出した木々からの木漏れ日が綺麗なんだけど、潜った時はあいにくの曇り空だった。

しかし、ここでの驚きは、カイメンの多さ。他にもちょこちょこ見るカイメンも、これだけ群生していれば目につく。それに、これだけ群生していると、ただのカイメンでも、ちょっとアートチックでつい撮影したくなる。

4皇が実存した、新世界の海
ラジャアンパットクルーズ
Raja Ampat Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
<http://www.edivekhaolak.com>

関連情報HPへ

05

ステージのスポットライトのように、いくつもの光が差し込む

4皇の島、最南端ミソール島の南東にあるジュリエット (Yiliet) 島。本当は、現地語でイリエットと呼ぶのだが、いつの頃からか、このジュリエット島の横にある岩礁をロメオ (Romeo) と呼ぶようになり、島自体もジュリエットと呼ばれるようになった。そのロ

メオの側に、さらに小さな岩礁があり、これがジュリエットケチル (Yiliet Kecil)、小さいジュリエットと名づけられた。

そのジュリエットケチルの水面すれすれの岩礁天井部分には、浸食でできた小さな穴がいくつも垂直に空いている。太陽

の光が差し込むと、まるでステージ上のキャストを照らし出すスポットライトのように、海中に光の柱を創り出す。とても、幻想的なシーンだ。

このスポットライトもロミオとジュリエットの名前の由来に一役買ったかどうかは定

かでは無いけれど、他ではなかなか見る事のない海中景観に、僕は心を奪われて、ずっと時間の許す限り、このスポットライトの撮影を続けていた。

01/ステージのスポットライトのようなくつもの光の筋に魅了される

02/スポットライトの近くにもハードコーラルやソフトコーラルが群生



01

02

4皇が実存した、新世界の海
ラジャアンパットクルーズ
Raja Ampat Cruise

ocean+α

©ocean+α ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.edivekhaolak.com>

関連情報HPへ

06

パラオのロックアイランドのような美しい景観

陸の絶景も、ラジャアンパットクルーズのバリエーションのラインナップの一つにあげられるだろう。

ラジャアンパット北部に位置するワヤッグ(Wayag)島の湾内にクルーズ船を停泊させて、ディンギーボートで島のビーチに上陸。そこから石灰岩が隆起してできた岩山を山頂まで登る。この上陸する感じも、ま

た海賊が町を襲撃するための隠密行動っぽくてワクワクする。山の名前はピンディト山。途中からほとんどロッククライミング状態でかなりハードだけど、頂きから眺めることができるワヤッグ島と周囲にあるパラオのロックアイランドを険しくしたような石灰岩が隆起してできた島々の連なりは絶景だ。この中には、パラオのジェリーフィッシュ

レイクと同じようなラグーンも存在すると聞いた。快晴の時に山頂に登れば、きっと素晴らしい風景写真が撮影できるだろう。バリエーションが多過ぎて、何だかメインのテーマが絞り切れず、アラカルト的な海の紹介になってしまったかもしれない。しかし、それだけ、飽きる事の無い海であることは間違いない。



02



01



03

- 01/ピンディト山山頂で記念撮影
- 02/ワヤッグ島の向うに、夕日が沈み、湾内を赤く照らす
- 03/ラジャには、こうした石灰岩が隆起してできた地形が点在している
- 04/ニューディロックは、まさにウミウシ
- 05/こんな島の風景には帆船が良く似合う



04



05

4皇が実存した、新世界の海
ラジャアンパットクルーズ
Raja Ampat Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



Information Link
<http://www.edivekhaolak.com>

関連情報HPへ

Mermaid II

マーメイドIIで潜るediveのラジャアンパットクルーズ



快適なクルーズライフが楽しめるマーメイドII号

今回のクルーズを企画したのは、タイのカオラックにあるedive。このediveがチャーターするのは、もともとタイでダイビングクルーズを行っていた、マーメイドII号。

ゲストは20名乗船可能。全長30m、全幅7m。450馬力、最大速度9ノット。全長4mの2艇のダイビング用ディンギーを搭載。ナイトロックスコンプレッサー搭載。

ブリーフィングなどを行うサルーンは、クーラーが効いていて、快適。ダイビングプラットフォームも、広く、多くのカメラを置ける

る台もあり、フォト派にも使いやすい。食事も美味しいと評判で、ビール、ワインは有料だが、飲料水だけでなく、ソフトドリンクとジュース、コーヒー、紅茶は無料。

マッサージのできるクルーも乗船していて、予約をすれば、船上で星を眺めながらのマッサージも楽しめる。

個人的には、帆船では無くて、海賊船っぽくない外観が残念だけど、とにかく快適に過ごすことができた。

01/ マーメイド号ツアーリーダー、スコットランド人のキース

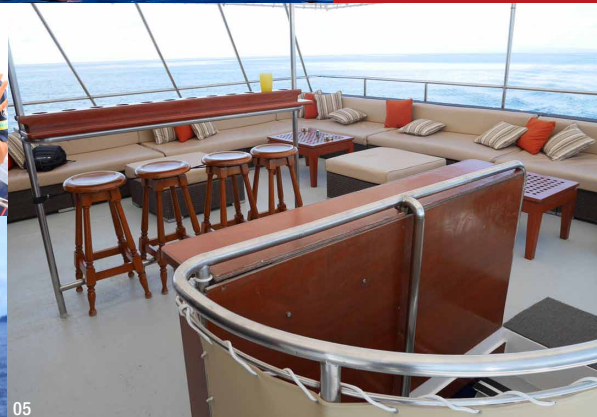
02/ 広いダイビングプラットフォームからディンギーに乗船

03/ 陽気なクルーたち

04/ ジャカルタから添乗してくれたediveの平川恭さん(左)とカメラマンのアレックス

05/ サルーンの際にあるオープンエアのスペースも海風を感じられて快適

06/ ディンギーのスキッパー



07/ 毎日のチーム編成がボードに表示される

08/ ブリーフィングを行なうサルーンはクーラーが効いていて快適

09/ 夜星空を見ながらのマッサージは船首にあるサンデッキで

4皇が実存した、新世界の海 ラジャアンパットクルーズ Raja Ampat Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
<http://www.edivekhaolak.com>

関連情報HPへ

Information

ediveがチャーターして、マーメイドII号で行く「奇跡の海ラジャアンパットクルーズ」の今後のスケジュールは、2015年1月18日～26日(26ダイブ)と、3月17日～25日(26ダイブ)。2月8日～18日ロングのクルーズでは、これにアンボン、バンダ島をくわえて、「アンボン・バンダ海ラジャアンパットクルーズ(30ダイブ)」を企画している。

また、同じくマーメイドII号で、2014年8月9日～16日(18ダイブ)、9月13日～20日(18ダイブ)の日程では、世界遺産コモド諸島クルーズも企画している。

詳しくはediveまで
 →<http://www.edivekhaolak.com>



01/今回僕と一緒に潜った取材チーム
 02/ツアーリーダーのキースがガイドを担当したチーム
 03/サイドマウントチーム



04/島上陸もダイビングもディンギーを使って移動
 05/北海道から来た仲良し女性ダイバーチーム



クルーズ後半には、ゲスト、ediveスタッフ、ガイド、そしてクルー全員で記念撮影。皆満足気な良い顔してます
 06/ediveのスタッフが毎回乗せてくれます



4皇が実存した、新世界の海 ラジャアンパットクルーズ Raja Ampat Cruise



©ocean+ a ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
<http://www.edivekhaolak.com>

←関連情報HPへ